

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	容器包装リサイクル事業	会計	一般会計	事業No.	339	施策順No.	56-004
		事業種別	政策・重点	予算科目	4-2-1-10-2		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	環境課		
施策	56 廃棄物の減量と適正処理			事業期間	開始	9	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	・飯田市民 ・収集されたごみ						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		飯田市の人口(人) (H22.10.1推計人口)	107259	106630	105691	105036	107000		
		ごみの総収集量(t)	24259	23757	22515	22041	25100		
意図		・分別を徹底実践してもらう ・容器包装対象物を再資源化する							
対象をどう変えるか	意図	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		再資源化率(%)	33.5	33.7	35.6	35.2	35.7	35.9	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		市民に資源ごみの分別が浸透してきていることが、再資源化率の向上に寄与している。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	容器包装リサイクル法に基づき家庭から排出される、ペットボトル、ガラス瓶、プラスチック製容器包装の回収を行い、再資源化を行う事業。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	資源となることを念頭に置いた、更なる分別を住民に徹底を図るため、きめ細かな指導を行っている。最終処分場における埋立ごみの組成調査とクリーンセンターにおける燃やすごみの組成調査を地元まちづくり委員会の環境衛生の役員と実施し、結果の公表をすすめる。結果は、パネルにし各地の文化祭等で展示し、市民の意識の向上を図る。 1 リサイクルステーション管理委託 2 ペットボトル減容作業等委託 3 プラスチック製容器包装中間処理業務委託 4 ガラスビン再商品化業務	1 委託所 2 ペットボトル収集量 3 プラ容器収集量 4 ガラスびん収集量	1 125カ所 2 90t 3 1,542t 4 452t
23年度実施計画	資源となることを念頭に置いた、更なる分別を住民に徹底を図るため、きめ細かな指導を行っている。最終処分場における埋立ごみの組成調査とクリーンセンターにおける燃やすごみの組成調査を地元まちづくり委員会の環境衛生の役員と実施し、結果の公表をすすめる。結果は、パネルにし各地の文化祭等で展示し、市民の意識の向上を図る。 1 リサイクルステーション管理委託 2 ペットボトル減容作業等委託 3 プラスチック製容器包装中間処理業務委託 4 ガラスビン再商品化業務	1 委託所 2 ペットボトル収集量 3 プラ容器収集量 4 ガラスびん収集量	1 130カ所 2 110t 3 1,550t 4 480t

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (そ)ごみ処理手数料38,846千円、ペットボトル再商品化還元金2,890千円、容器包装再商品化合理化還元金6,386千円
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他		48,815	48,122	46,863	
一般財源		952		952		
計(A)		49,767	48,122	47,815		
正規職員所要時間			520			
臨時職員等所要時間			75			
人件費計(B)			1,940			
トータルコスト A+B			50,062			

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> 積極的に協力する市民がいる反面、分別の煩わしさから非協力的な市民もいる。 リサイクルステーションの回収場所や時間の制約があるので、常設の受入場所を設けてほしいとの声がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	①ごみを少なくする ②適正に処理・リサイクルされる	施策の成果指標又はムトス指標	ごみの収集量
				再資源化率
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	再資源化率が向上し、処分ごみの減量化につながった。		
	後期に向けた課題			
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	最終処分場における埋立ごみの組成調査とクリーンセンターにおける燃やすごみの組成調査を地元まちづくり委員会の環境衛生役員と実施し、その結果を公表する事業に取り組んだ。		
	後期に向けた課題			
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	市民に、処分ごみは有料で資源ごみは無料あることのピーアールに努めた。ごみの分別などについて、地元の環境衛生委員会等が主催する学習会に講師派遣を行った。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	容器包装リサイクル法により、市町村は容器包装廃棄物の分別収集を行うこととされているため、適切。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①容器包装リサイクル法により、消費者は容器包装廃棄物の排出を抑制し、ルールに沿って分別排出する役割を担うこととされている。 ②市民への啓発活動。		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	再資源化率が向上した。H19→H20(0.2%増),H20→H21(1.4%増),H21→H22(0.1%増) 処分ごみの減量化につながった。H19→H20(2%減),H20→H21(5%減),H21→H22(2%減)		
	後期に向けた課題			

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------